

# さいたま市地域交通共創人材・コーディネーター育成事業(埼玉県さいたま市)

## 事業実施主体

【共創プラットフォーム】

さいたま市地域交通共創人材・コーディネーター育成事業

【事業主体】さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム

【構成員】さいたま市、株式会社JTB 埼玉支店、KPMGコンサルティング株式会社

## 地域課題

新たなモビリティサービス、既存交通や地域経済サービスと連携した MaaSの実装を目指しているが、データを含む事業者間の連携が必須であるが、特に既存交通事業者においてはデータ活用や連携に関するノウハウがなく、二の足を踏んでいる状況である一方、鉄道・バス等の公共交通事業者は、事業環境の変化に伴い、コスト削減とサービス水準の低下の負のスパイラルに陥っている状況である。

## 実証事業の内容

基幹の交通網の維持・増進をテーマに行政担当者と公共交通事業者等から参加者を募り、講義・実践型ワークショップ形式の育成プログラムを実施。また、地域内の事業者連携による交通網の維持・増進について、継続的な実行体制づくりを目指す。

## 今後の展開

今回の人材育成事業で構築したフレームワークを用いて、地域公共交通会議等の座組の中でデータを活用した課題分析や効果検証の取り組みを進める。さいたま市と周辺6市1町が、広域的な新たなモビリティサービスの導入を目指し、MaaSなどを社会インフラとすることを目的として設立した『新たなモビリティサービスによる「まち」づくり協議会』の会員自治体の職員や関係事業者に参画・情報連携を促し、継続的に人材育成を実施。

## 事業実施地域・手順

### 埼玉県さいたま市

本事業において、①参加者募集・事前準備→②講義の実施→③ワークショップの実施→④次年度の実証計画の策定を実施する。

- ①参加者募集・事前準備: 最新事例の調査とともに、事例に関する有識者へのアポイントメント・事前ヒアリングを実施(※これまで蓄積してきた、グローバルでの弊社アセットやコネクションを活用予定)
- ②講義の実施: データ利活用によるDXについて「まず知ること」を目的に、研究者や先行取り組み自治体等の有識者による具体的事例を元にした下記テーマ内容の講義を実施する。
  - A.さいたま市におけるパーソントリップ調査等のデータから見える現状について
  - B.まちづくりDXでの人流データ活用について
  - C.モビリティサービスの移動データを活用した課題と要因の分析について
  - D.公共交通機関と観光事業者の連携について
- ③ワークショップの実施: 下記a.b.c.dについて、個人ワークヘディスカッションを実施
  - a.課題の整理: 行政の交通関連計画や各社が抱える地域・路線別の課題(渋滞発生による遅延、乗車中の運賃収受や安全対策、不採算路線の特定、観光ビッグデータの利活用等)を整理
  - b.課題の可視化: 上記課題を、どのようなデータを用いると検証できるかについて検討。各社で共有できる人流データやアンケート等の統計データを主として、各事業者の所有するICカード等の実績データや車両内計測機器データを重ね合わせ可視化することを目指す
  - c.施策の検討: 上記課題をもとに打ち手の整理、および実行するにあたっての関係者を整理
  - d.施策のインパクト評価: 上記打ち手のうち最も適切な打ち手を選択するためのロジックづくり、および上記データを用いた仮の試算を実施
- ④企画書の作成: 上記のワークショップをもとに、実践につなげるために課題優先度と施策案を取りまとめた企画書を参加者連名で作成する。
- ②③については動画を記録し、来年度以降の教育資料としても活用予定。

## 事業スケジュール

活動内容	時期						
	8	9	10	11	12	1	2
参加者募集・事前準備	■						
講義		▲ 8/30	▲ 9/28(予定)	▲ 10/31(予定)			
・事務局運営	■						
・内容準備	■						
ワークショップ				▲ 11/初	▲ 11/末	▲ 12/末	▲ 1/末
・事務局運営			■				
・内容準備			■				
企画書の作成							■
実績報告							■ 報告書作成